

令和7年度 授業改善推進プラン

<第4学年>

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・日常生活に必要な国語の知識や技能	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 本校における標準学力調査 CBT 平均正答率 72.2% </div> ・第3学年に配当されている漢字を正しく使う力が不足している。 ・叙述を基に登場人物の気持ちを捉える力が不足している。	・漢字の書き取りに関しては、ドリルを使った反復学習を継続するとともに、教科書教材の「漢字の広場」などを活用し、文中で活用する学習を行っていくことで習熟を図る。 ・叙述から考えたことを会話形式で吹き出しにしたり、登場人物になったつもりで日記を書いたりなど、登場人物の気持ちを考える必然性のある学習を取り入れていく。また、行動やセリフ、心内語など、心情を想像するための根拠となる言葉の見つけ方を指導するようにしていく。
社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、選択・判断したことを表現したりする能力	・必要な情報を調べ、資料に着目して自分の考えをまとめること。	・グラフであれば縦軸、横軸など、表であればタイトルなど、それぞれの資料の読み取り方の着眼点を指導する。また、まずは資料から分かる事実を読み取り、次に考察をするなど、事実と印象を区別して読み取りができるようにしていく。
算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・問題から必要な条件を抜き出し、数量関係を理解する力	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 本校における標準学力調査 CBT 平均正答率 77.2% </div> ・問題場面における数量関係を把握し、□を使った式に表現する力は不足している。	・基礎コースでは、児童が自ら図を用いて問題の構造を視覚化していけるような指導を行っていく。発展コースでは、不要な条件を問題に加え、問題解決に必要な条件を判断するような問題にアレンジすることで、様々な条件から問題把握に必要な条件を抜き出す力を高める。

令和7年度 授業改善推進プラン

<第4学年>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> 主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力 	<ul style="list-style-type: none"> 季節の移り変わりとともに、植物や動物の様子が変わることについて理解する。 自分が立てた予想と結果を比べて考察したり、そこから生まれた疑問に対して根拠を持った考えをもったり共有したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 2事象を提示し、それぞれの事柄を関係付けて考えることができるよう、発問や指導の展開を工夫する。 既習事項や生活経験と事象を結び付けるために、対話的な活動を取り入れる。 実体験を積ませるとともに、動植物など直接体験することが難しい事柄は動画を活用し、具体的に指導する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 児童が自ら音楽表現を考え、表現に対して自分の思いや意図をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 様々な表現を声や楽器の音色で表す技能 【思考・判断・表現】 これまでに習得した知識や技能を活用して表現を工夫する力。 	<ul style="list-style-type: none"> 声や楽器の音色の幅を増やすために、様々な表現方法で歌ったり演奏したりする時間を増やし、技能の向上を図る。 楽曲で活用する可能性があるこれまでに学習した知識や技能を事前に復習し、表現の工夫を考える際に活用できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> 色や形の違いが分かり、手や体全体の感覚を働かせ、既習の材料や用具を使い、創造的につくったり表したりする。 表したいことに向かって豊かに発想や構想を広げ、身の回りの作品などから進んで自分の見方、感じ方を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 基本的な材料、用具の扱い方を定着させること。 【思考力・判断力・表現力】 材料や用具、言葉、色等から豊かに発想や構想を広げられること。 【主体的に学習に取り組む態度】 用具や材料から想像を広げ自ら進んで取り組むことができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具の安全な扱い方を徹底し、体全体の感覚を働かせながら、表し方を工夫し、既習の材料や用具に加えて、新たな材料・用具について技術の定着を図る。 さまざまな材料や用具を使いながら、感じ方や想像したことを基に、豊かに発想や構想を広げられるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の児童を除き、投げる運動や跳ぶ運動の経験が少ない。 運動に親しむことはできるが、課題をもったり課題解決を工夫したりする学習は個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるよう、発問や学習資料の提示を工夫する。

令和7年度 授業改善推進プラン

<第4学年>

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> NTの発音やゲームのルールの説明を正確に聞き取れず、学習に消極的な児童がいること。 英語でコミュニケーションをとること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好きなことややりたいことなど、自分の考えを伝え合う活動をさせる。 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら自分の考えや気持ちなどを話す活動を取り入れる。 タブレットで話型をつくり、ペアで会話の練習をする。
道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えること。 自らを振り返るために、多様な考えに触れられるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 議論したり、話し合ったりする活動を入れることで、互いの考えを認め合ったり、自分の考えを広げたり深めたりする。 多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の意見や考え方に偏った指導を行うことのないようにする。
特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決をするために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりできる力 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と異なる考えを受け入れ、学級全体が納得のいくように話し合うこと。 めあてに沿って話し合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践することができるようにする。 話し合いのルールを明確にし、見通しをもって話し合いを進められるようにする。
総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 実社会や実生活の中から課題を見だし、自分で見通しをもって情報を集め、集めた情報を整理してまとめ、表現できるようにする力 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けた調べる活動において、タブレット端末以外の調べる手段についても身に付けること。 普段の生活や学習から問いを見出し、課題を見付ける習慣を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットなどの基本的な操作を習得し、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるようにする。 体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れる。